

デジタルエンジニアリング演習

# 流体力学設計演習 (3)

計測会, レポート要領

2018年12月7日(金)

担当:

泉聡志, 杵淵郁也, 長藤圭介, 波田野明日可, 井ノ上泰輝,  
吉本勇太, 高本聡, 石川明克, 中根茂, 諸山稔員, 市川保正

# 流体発表・計測について

2

## ●実施日時

12月13日(木) 13:00～

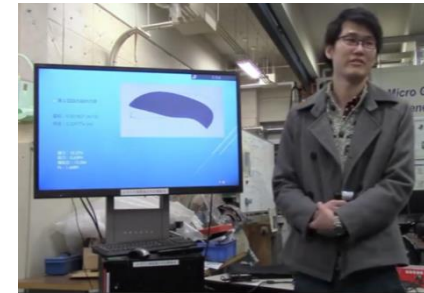
- ・13:00, 13Bに全員集合, 8号館に順次移動して, 発表・計測.
- ・1班ごとに8-0029室で発表と計測(本資料p.4のスケジュール).  
一つ前の班が始まる時間には移動して待機.  
8-0029室の様子はウェブカメラで2-13B室に中継.
- ・班員全員が参加すること.
- ・流体のプレゼンのデータをUSBに入れて持参.

# 各班の流体発表・計測の流れ

3

## ・プレゼンテーション(8-0029):3分

設計した形状に関して, 設計の意図やプロセス, 流れの解析結果を説明するプレゼンテーション.  
(圧力コンター, 流跡線,  $F_{\parallel}$ の迎角依存性など)  
PowerPoint資料をUSBメモリ等に入れて持参.



## ・計測(8-0029) :7分

お試し実験で成績がよかった翼で**実験(迎角3種類)**



# 流体計測時間帯(3分発表, 7分計測, 2分入替)<sub>4</sub>

## ●12月13日(木)

班	時間
17	13:10 – 13:22
18	13:22 – 13:34
19	13:34 – 13:46
20	13:46 – 13:58
21	13:58 – 14:10
22	14:10 – 14:22
23	14:22 – 14:34
24	14:34 – 14:46

班	時間
25	14:46 – 14:58
26	14:58 – 15:10
27	15:10 – 15:22
28	15:22 – 15:34
29	15:34 – 15:46
30	15:46 – 15:58
31	15:58 – 16:10
32	16:10 – 16:22

# レポートについて(流体)

5

- ・設計した物体形状について, 設計の意図やプロセス, 流れの解析結果を説明する(図を貼るだけでは再提出). 翼形状を修正して流れがどのように変化したか(試作1と2の計算結果の比較, または試作していない翼との比較). 迎角に対する $F_{\parallel}$ 等のプロット. 計算条件の工夫等あれば. さらに改良する場合の方針.
- ・班ごとではなく, **個人ごとに作成する.**
- ・1回目のレポート内容を踏まえて作成.

提出期限: 12月27日(木) 23:59

提出先: [report-ryutai@photon.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:report-ryutai@photon.t.u-tokyo.ac.jp)

PDFファイルを添付してメールで提出 (ファイルサイズ:なるべく5MB以下, 上限10MB)

ファイル名: [班番号2桁]班\_[学生証番号8桁]\_[氏名]\_DE最終.pdf

(例) 01班\_03999999\_山田太郎\_DE最終.pdf